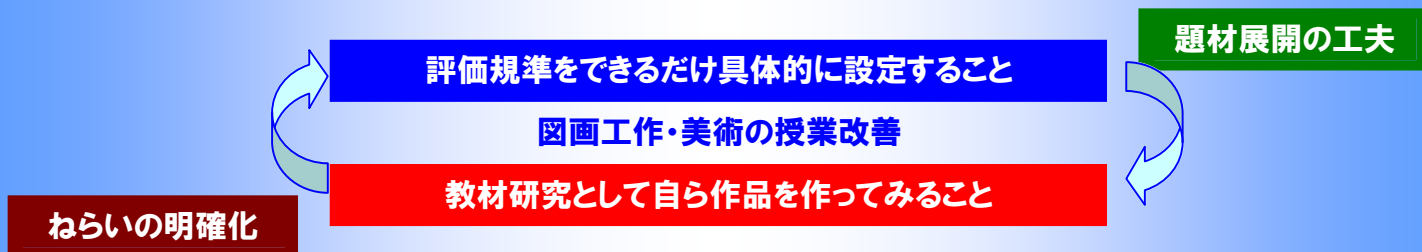


研修から見える図画工作科・美術科の授業改善の視点

1. はじめに

研修で先生方が感じた研修のポイントをまとめると、下図のようになります。感想記録も、色で対応するようにまとめてみました。気になるところを一読いただき、現場での研究に役立てていただきたいと思います。小学校図画工作の感想が主ですが、中・高・特別支援学校の先生方すべてに共通する内容です。



2. 感想記録

感想記録（抜粋）	場面
<p>図工の指導案を初めて書いた(作った)ので、それを基に話をしたり指導の先生から御指導を頂いたりすることができ、とても勉強になってよかったです。</p> <p>普段、図画工作の指導案を作成する機会もないので、書き方等、参考になりました。また、発達段階に応じた指導(課題・技能)が重要なこと、その他にも参考作品の提示の仕方や鑑賞の場など、いろいろ話が聞けてよかったです。</p>	<p>小経Ⅱ</p> <p>教科相談員との協議</p>

経験Ⅱ(10年研)で図画工作の指導案を初めて作成！！ガンバレ図工！

感想記録（抜粋）	場面
<p>日常の図工指導で困っていることや悩みへのアドバイスが大変参考になった。特に「評価」の仕方や参考作品の三つの型の話である。</p> <p>授業の組立てや「構想」の段階のとらえ方について教えていただけて良かった。</p> <p>子どもたちが、自分の世界にひたれるように題材との出会わせ方、場の設定等を工夫し、子どもの世界に共感し、認めてあげられる感性を自分の中に育てていきたいと思いました。</p>	<p>小経Ⅱ</p> <p>教科相談員との協議</p>

題材の展開だけでなく、教員自身の感性にまで意欲が及んでいます。



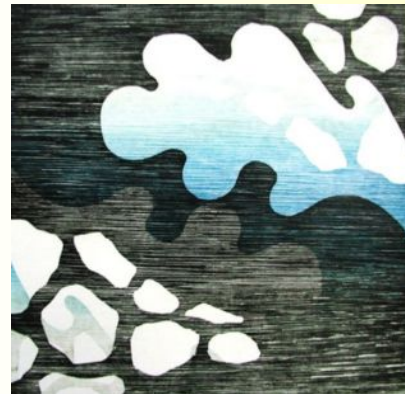
感想記録（抜粋）		場面
図工の観点別評価の仕方や、課題提示の仕方、活動内容について具体的な内容で話し合うことができた。	小経Ⅱ	教科相談員との協議
子どもたちがより意欲的に創作活動に取り組むためには、題材との出会わせ方が大きなポイントであることを改めて思った。また、評価規準をより具体的にイメージできるかが大切であることを感じた。そのためにも、参考作品を作ることはとても有効である。	小経Ⅱ	教科相談員との協議
各学校におけるシラバス、個別計画など保護者や生徒本人に目標、手立て、内容、評価についてきちんと伝えることが大切。評価の観点について指導者が計画の段階で押さえておくことも大切。	中高経Ⅰ	教科相談員との協議

子どもの能力を判定することが評価ではありません。教員の指導による、子どもの変容を評価するのです。

感想記録（抜粋）		場面
「この題材で身に付けさせたいことは何か」を明確にする必要がある。	小経Ⅱ	教科相談員との協議
図工に限らず、系統性を把握することの大切さを再確認させられました。一つ一つの授業にしっかりとねらいを持ち、行えるように勉強していきたい。	小経Ⅰ	教科相談員との協議
「目当ての明確化」や、「指導の系統性」をどうつなげるかという点を勉強させていただきました。	小経Ⅰ	教科相談員との協議
ねらいを明確にし、技能を教え、豊かな表現をのびのびとできる授業にしていきたいです。	小経Ⅰ	教科相談員との協議

自分の取組みを振り返ることが大切です。そして、たくさんの情報交換が有効です

感想記録（抜粋）		場面
今日の実技で上手くない自分が満足感を得られたので、子どもたちにもこのように指導できればいいのだなと思いました。	小経Ⅰ	実技研修
実技を通して自分が児童の立場だったらこんな時に助言がしてほしいとか、こんな言葉かけをしてほしいということも感じることができました。	小経Ⅰ	実技研修
大人でさえワクワクするこの経験、体験を子どもたちに味わわせられたらと思った。	小経Ⅰ	実技研修



感想記録（抜粋）		場面
実際にソフトを活用し制作することで、生徒がつまずきそうな部分、工夫できそうな技法などについて気付くことができました。	中高経Ⅰ	実技研修
実際に版画をしてみても、活動することの楽しさを感じ、子どもたちにも「楽しい」「完成してうれしい」と思えるような授業をしたいと思った。	小初	実技研修
実際に版画作りをし、とても楽しかったです。子どもたちと同じで、「自分の思いのままに」表現することの難しさも実感できました。	小初	実技研修
実際に活動する中で、指導の先生に作品をほめていただいたり、周りの先生方の作品の良いところを見たりして、意欲が高まるのが自分でも感じられたので、子どもたちにもそういう思いをさせたい。	小初	実技研修
木版画の制作をしながら、教材研究について学習した。実際に作ることで、気を付けなければいけない点、アドバイスできる点などに気付くことができ、子どもを目の前にして指導するときにとっても役立つと思った。子どもに指導するためには、事前に教師がやってみることの重要性を改めて実感した。	小初	実技研修

教材研究の要は、実際に授業作品を自分でも制作してみることです。授業の組立ての素材になるだけでなく、作ることの面白さも、難しさも実感できます。

感想記録（抜粋）		場面
図工の苦手な子どもはどのクラスにもいます。そういう子どもたちにも、図工の楽しさを伝えられたら、と思いました。	小経Ⅰ	教科相談員との協議
描くことや作ることに、自信がなかったため、子どもたちへの指導も積極的になれなかったが、演習を行うことにより、楽しい図工の授業を楽しまなくてはもったいないという気持ちになれた。子どもたちに返していきたい。	小経Ⅱ	大学教授による講義と演習
先生のように、ほめるべきところ、支援すべきところがぱっとわかるはずはないので、毎日少しずつ、自分を高めていかなければならないと思いました。		
ほめ方も、私のような通り一遍の「〇〇が△△で良かったね。」ではなく、心に響くような言葉だったので、今後は私もそのような言葉をかけられるようにポキャブラリーと知識を増やしていきたいと思いました。		



3. おわりに 子どもたちが作るものを、先生方も実際に制作してみましよう。評価規準もより具体的に設定できるようになります。